

## 環境振動運営委員会 議事録

A. 日 時 2012年4月16日 月曜日 17:30~20:00

B. 場 所 建築学会会議室

C. 出席者 横山主査, 他 11名

### D. 提出資料 (提出委員名)

No.1-1 前回議事録案

No.1-2 2011年度運営委員会活動成果報告

No.1-3 2011年度小委員会活動成果報告

No.1-4 2012年度環境工学委員会各委員会設置期間・予算配分

No.1-5 2011年度小委員会予算配分案

No.1-6 環境振動評価小委員会活動報告

No.1-6' 環境振動測定分析小委員会活動報告

No.1-7 居住性能評価指針検討WG (環境振動評価小委員会評価WT)

No.1-8 戸建て住宅の三成分振動特性測定・評価WG

No.1-9 広域評価モニタリングWG

No.1-10 東日本大震災を踏まえた長周期地震対策の課題

No.1-11 環境振動広報WG「第2回WIB工法セミナー」

No.1-11' 環境振動広報WG「日本免震構造協会報告会」

### E. 議事内容

#### 0. 前回議事録確認 (資料 No.1-1)

- ・2-2. 設計小委員会 ISOと差別化が出る。 → ISOと差別化が出来る。
- ・2-6. 測定分析小委員会 振動源 (内外関係ないが家屋内で測定) → 振動源 (内外は関係無いが家屋内で測定)  
上記修正を行うことで、了承された。

#### 1. 環境工学本委員会報告

○2011年度第4回環境工学委員会 2012年2月21日開催

- ・予算の消化率が悪い。 予算比率, 基 (75%)、企 (25%) の内, 企画が特に悪い。
- ・予算の執行 環境振動 60%, 配分を考え執行の効率を上げる必要がある。
- ・2012年度環境振動の予算は, 234,000円に決定した。
- ・学会賞は木村翔先生が受賞された。
- ・AIJ デジタルライブラリィ 論文のダウンロードが可能となっている。
- ・2012年度国際交流振興基金援助事業 対象があればエントリーをお願いする。
- ・2012年度プログラム編成会議が4月25日に実施される。
- ・冊子版論文梗概集の廃止, DVDで配布。
- ・2012年度大会研究協議会・研究懇談会「エネルギーとライフスタイルのあり方」, 「節電から考えるこれからの建築」
- ・学会員以外の委員会メンバーは, 理由書が必要で基本入会してもらう。
- ・AIES 学会指針はその検討委員会で責任を持つこと。

#### 2. 2011年度委員会等活動報告, 予算配分

2-1. 環境振動運営委員会活動成果報告 (資料 No.1-2, No.1-3)

- ・運営委員会、シンポジウム企画検討 WG, 広報 WG, 戸建て住宅の三成分振動特性測定・分析・評価 WG の活動報告 (参考)
- ・環境振動測定分析小委員会, 環境振動評価小委員会, 環境振動制御技術小委員会, 環境振動設計小委員会の活動報告 小委員会の最終年度があり, 活動にはそれを十分考慮すること.
- ・各委員会設置期間・予算配分 (資料 No.1-4, No.1-5)  
全体額は前述通り、234,000 円
 

環境振動運営委員会	74,000 円 (WG は運営委員会に属する)
環境振動測定分析小委員会	50,000 円
環境振動評価小委員会	70,000 円
環境振動制御技術小委員会	20,000 円
環境振動設計小委員会	20,000 円

### 3. 各小委員会・WG 活動報告

#### 3-1. 評価小委員会 (資料 No.1-6)

- ・02/20 開催分について, 資料に基づく報告があった.
- ・「広域実測 WT」, 「評価 WT」, 「説明性 WT」, 「データベース WT」の今までの活動に関する「要望と提案」を次回小委員会までに提出する.
- ・「説明性 WT」で人間工学ハンドブックに見る振動感覚に関する記述, および日本女子大学石川研究室の成果も考慮する.
- ・気象庁震度階級に構造物種別での記述がある.
- ・トンネル発破の消音器対策も、環境振動の範囲.
- ・「評価 WT」は評価関連の資料収集・整理に着手している.
- ・今期はシンポジウムの開催をめざし活動する.
- ・低周波 (衝撃波、微気圧) も環境振動の範囲なら、道路橋梁の床板の揺れで家屋、家具が揺れる現象も扱うべき. (これは低周波騒音で扱っている)
  - 物理的, 生理的→居住性能を環境振動として確立すべき.
  - 音の委員会では低周波扱わない.
  - ISO では, ソニックブームや微気圧は振動の分野とされている.
  - 建築学会では扱うところが無い.騒音制御工学会なら取り扱っている.
  - 環境省のマスターにはしたくない.
  - 居住性能評価の検討として松本委員が位置付ける.

#### 3-2. 測定分析小委員会 (資料 No.1-6')

- ・03/08 開催分について, 報告があった.
- ・JR 武蔵境駅沿線実測の分析結果を、建築学会大会に 4 編投稿する. (小委員会 2 編、後藤研 2 編)
- ・環境振動測定方法に関するアンケート調査を、各委員会, WG の傘下の委員にメール依頼し実施したい.
- ・構成委員は全員建築学会員となった.

#### 3-3. 居住性能評価指針検討 WG (資料 No.1-7)

- ・01/24 開催分について, 報告があった.
- ・環境振動評価小委員会評価 WT と共同で作業を進めた.
- ・構造系論文も資料整理に加えた.
- ・評価指針の対象範囲と評価の枠組みについて, 意見交換を行った.
  - 居住性の範囲の設定が必要ではないか.
  - マトリックスのマッピングが出来ていない.議論はされたのか.

3-4. 戸建て住宅の三成分振動特性測定・評価 WG (資料 No.1-8)

- ・03/23 開催分について、報告があった。
- ・振動調査物件は平成 23 年度 (3 月末) で、119 棟のデータが確保できた。
- ・この調査結果を技術報告にまとめる予定である。
  - メーカーが特定できるような報告にしない。
  - この結果から家屋内振動の予測は出来るのか。
  - 何らかの提案は出来ないか。
  - 構造種別ごとに区別が出来そう。
  - 床中央のデータが欲しかったが。

3-5. 広域評価モニタリング WG (資料 No.1-9)

- ・02/29 開催分について、報告があった。
- ・「道路交通振動の苦情発生の実態把握」、「道路交通振動に係る振動測定マニュアル」について意見交換を行った。
- ・「広域モニタリング手法」、「広域予測手法」の位置づけ。
  - 道路振動の予測は、旧土研式、騒音制御工学会式を用いた。
  - センサーの S/N 比は悪いが、実用範囲の中と考える。技術の進歩は速いので改善される。

3-6. 広報 WG (資料 No.1-11, No.1-11')

- ・第 2 回「WIB 工法」セミナーの案内。
- ・(一社法) 日本免震構造協会「東北地方太平洋沖地震に対する応答制御建築物調査」報告会の案内。→有益と思われるので、ぜひ参加を促して貰いたい。

4. 「東日本大震災を踏まえた長周期地震動対策の課題」(資料 No.1-10)

- ・特に長周期振動における「7.5 家具什器、揺れの生理・心理音響」は興味深い。
  - 3.11 の時は「地震酔い」があったという。その他に、地鳴り、揺れが残る感覚、恐怖感が報告されているが、その割に構造物には被害が小さかった。
  - 地震時の居住空間との関連性。
  - 環境振動では以前から取り組んでいるが、長周期地震動の対応(耐震)。
  - 後藤論文をホームページに掲載することとした。海洋の揺れのデータもあれば載せるべきである。
  - 長周期振動の対応は、環境振動評価小員会で取り組めるか検討する。

5. その他

一年間開催予定

2012 年 6 月 日 ( ) 環境振動シンポジウム企画検討 WG 開催予定

1 回目 2012 年 07 月 02 日 (月) 17:30~

2 回目 2012 年 09 月 24 日 (月) 17:30~

3 回目 2012 年 11 月 26 日 (月) 17:30~

4 回目 2013 年 01 月 25 日 (金) 10:30~

同日 第 31 回環境振動シンポジウム 13:00~

以上